

国連ウィメン日本協会 おおさかニュース vol.6

発行：国連ウィメン日本協会大阪

発行：2023.4月

Make Noise! (騒げ!) ー障害女性の課題をメインストリームにー

 藤原 久美子さん

DPI女性障害者ネットワーク代表

10代で1型糖尿病を発症、合併症により30代半ばで視覚障害者(弱視)となる。障害を理由に中絶を勧められた経験から、現在の活動に取り組んでいる。



女性であり障害者であることで、困難が幾重にも重なり、その解消が困難になることが障害女性の複合差別です。障害者統計には、性別クロス集計データが乏しく、女性施策と障害者施策の谷間に陥りやすいため、可視化されにくい現状があります。就労率や収入の低さ、介助を受ける側という立場の弱さからDVや性被害を受けやすいが、障害者はその性を尊重されず、男性が女性を介助する異性介助が行われる中で、深刻な性被害も受けています。

しかし、女性相談の窓口やDVシェルターは、障害者にとってアクセスしやすいものではなく、障害福祉にはジェンダーの視点がありません。外出が大幅に制限されたコロナ禍において、相談すらできないといった深刻な状況は、海外からも報告されています。

CEDAW(女子差別撤廃条約)には障害女性に関する条文がないため、私たちは2016年ジュネーブに渡航し、直接CEDAW委員に課題を伝えました。特に障害者のSRHR(性と生殖に関する健康と権利)を否定し、今なお解決していない優生保護法問題には、加害者への処罰にまで言及する強い勧告が出されました。これをきっかけに、この問題の解決に向けて大きく動くこととなったのです。

一方、2006年に採択、日本が2014年に批准した障害者権利条約(CRPD)には、障害のある女性や少女に関する権利やエンパワメントについて書か

れた第6条があります。2022年8月には、日本の実情への審査が行われ、その後出された勧告には、あらゆる法律に障害女性の複合差別の視点を盛り込むことや、障害女性や少女に対する不妊・中絶手術を強要することの禁止、包括的性教育の推進、そして意思決定機関への障害女性の参画など、非常に重要な勧告が出され、手ごたえを感じました。

しかし、CEDAWロビイング終了後に現地の支援者がくれた言葉は、「Make Noise!」(騒げ)でした。この言葉は、「どんなに良い勧告が出ても、ただ黙っているだけでは、何も改善されない。それを国内に知らせて、様々な人を巻き込み、国を動かしていくことが必要である」ということでした。

これまで、自らを醜く価値のない者として捉えさせられ、声を上げることもできずに留め置かれてきた障害女性たちですが、この勧告を力に、もう黙ってはいません。私たちが生きやすい社会、そして全ての人にとって生きやすい社会の実現のために、障害女性の課題をメインストリームにすべく、これからもこの課題に取り組んでいきます。



障害者権利委員会による条約の実施状況についての審査(建設的対話)の傍聴の様子



DPI女性ネットのメンバーと国連ロビーにて

みなさん、はじめまして。2022年から、理事として参加させていただいている、瀬戸口恵美子です。

私は天王寺区に事務所を構える「公益財団法人太平洋人材交流センター」(PREX)で、途上国の人材育成に携わってきました。

PREXの実施する研修プログラムには、途上国の企業経営者や行政機関の管理者などが参加し、自国のよりよい発展に必要な産業振興のための取り組みについて日本や他国の経験を通じて気づきや学びを深めています。

東南アジア、中央アジア、南アジア、またアフリカや中南米と世界各地から、多くの女性も参加しています。その割合は3~4割程度です。

長い場合、1か月以上の研修に来日参加し、成長するチャンスが多くの方に与えられています。

発展の過程にある国から参加する皆さんは、将来への夢とエネルギーに溢れています。研修中も多くの女性が自分への期待に臆することなく、積極的に発言し行動します。そういう姿から私自身も刺激や勇気を何度ももらいました。

私はこれまで仕事を通じて、キルギス、カザフスタン、ウズベキスタンといった中央アジアの方々と特に多く交流してきました。

まだ家父長制の残る地域もあり、そういう社会においては女性の社会的地位は必ずしも高くありません。

しかし、私が出会った女性たちは皆、それぞれの使命や夢を叶えたいという強い思いと、経済的に独立する権利を得るために戦う「タフさ」のようなものも

持ち合わせています。議論や発言の場でも女性も男性も対等に発言をしますし、その存在や発言をお互いが尊重し合っています。

こんな様子に本当に力を貰うのですが、背景にはそれぞれの社会の中に、これまでの世代を超えた、ロールモデルが身近にあり、男女問わず小さいころからそれを見て育ってきたことによる「教育」が社会を下支えしているのではないかと思います。

キルギスの知人の中に、女性がいきいきと働けることをめざして、女性服の開発・製造・販売をする女性起業家があります。彼女は自分の夢を実現するために国際NGOで働いて貯めた資金で起業しました。今はご家族の成長のためにフランスに住みながら、定期的にキルギスに通って経営も継続しています。

自らの道を切り開き、その軌跡をキルギスの若者に見せようという彼女の姿勢に、いつも感銘を受けます。社会や組織の「多様性」がイノベーションの源泉だと言われる時代です。同時代を生きる途上国の女性たちのエネルギーやその姿は、私たちが一歩踏み出す勇気を与えてくれるのではないのでしょうか。お互いの連帯や学び合いの機会をこれからもPREXを通じて作れたら、と思います。



キルギスの起業家エルギザさんとともに

国連ウィメン日本協会大阪理事 瀬戸口 恵美子

report

ネットワーク会議に参加しました。



2023年2月25日(土)に、4年ぶりの開催となる「国連ウィメン日本協会 協力協定団体ネットワーク会議」が横浜市男女共同参画センターにて開催されました。会議には、東京、よこはま、北九州、さくら、大阪の協力協定団体が参加し、2022年度の活動報告や2023年度の事業展開について各団体ごとに発表をしました。

各団体発表後の意見交換では、ここ数年、コロナ禍で思うように活動できなかったことや、会員数の減少が共通課題としてあげられた他、日本協会への要望や、今後のネットワーク会議のあり方など、活発な意見交換が行われました。

会議後には、同センター内にある各国の女性たちが作った支援製品を取り扱う「ウィメンショップ」を案内いただき、手作りの商品などを紹介していただきました。当日は、コロナの影響により、ショップは休業中でしたが、4月のオープンに向けて準備を進めておられました。今回、会議に参加をして、他の協力協定団体のみなさまと直接意見交換や交流をすることができ、大変貴重な一日となりました。



2022年度 活動報告

国際女性デー記念講演会「世界の女性、日本の女性」

2022年3月7日(月) オンライン開催 / 主催：国連ウィメン日本協会大阪、クレオ大阪子育て館

3月8日の国際女性デーを記念して、オンラインで記念講演会を開催しました。2022年3月に開催された、国連女性の地位委員会(CSW66)の優先テーマは「気候変動と環境・災害リスク削減に関する政策・プログラムにおけるジェンダー平等とすべての女性と少女のエンパワーメント達成」でした。そのテーマに関連して、「女性×気候変動」という切り口で、国連ウィメン日本協会大阪の三輪敦子会長に講演いただきました。気候変動の問題は、経済、雇用、命の安全など、全てに関わる問題です。ジェンダー視点で気候変動を考えることの必要性や、自然災害が発生した際、女性は男性と比較して、より大きな被害を受けることなどを、具体例を用いながらお話しいただきました。参加者からは「日々の生活の中でも、視点を変えることで問題が見えてくるとわかった。」「自分のできることは何か、改めて考える良い機会になった。」といった感想をいただきました。



国際ガールズデー2022「ウクライナの女の子の今と私たちにできること」

2022年10月10日(月・祝) オンライン開催 / 主催：クレオ大阪中央 共催：国連ウィメン日本協会大阪



10月11日の「国際ガールズデー」に合わせて、オンラインセミナーを開催しました。セミナーでは、ルーマニアでウクライナ避難民の支援をされている、プランインターナショナルの山形文さんに、避難民が置かれている現状を報告いただきました。

2022年2月に始まった侵攻により、人々は命を守るために近隣諸国に避難し、多くの子どもたちやその家族が、国内外で厳しい避難生活を余儀なくされていることや、子どもや女性たちが安心して過ごせる環境づくりのために、生活必需品の支給や子どもの保護、心理社会的ケア、教育支援、住居の確保などの様々な支援について、現地の写真とともにお話しいただきました。参加者からは「世界が力を合わせて戦争をやめさせる、という言葉が印象的でした。」「避難民の女性や子どもの権利、ウクライナ情勢に関して関心を持ち続けたいと思います」といった感想が寄せられました。

「じんけんシネマ2022」2022年12月4日(日)

会場：クレオ大阪中央 主催：クレオ大阪中央、ヒューライツ大阪 共催：国連ウィメン日本協会大阪

5回目の開催となる「じんけんシネマ2022」に、共催団体として参加し、ブース出展をしました。当イベントは、映画を通じて、人権課題への理解を深めることを目的に、毎年12月の人権週間にあわせて開催しています。今回はサプライチェーンの人権課題を描いた『ザ・トゥルー・コスト〜ファストファッション 真の代償』と、モロッコ社会における、シングルマザーが直面する困難と連帯を描いた『モロッコ、彼女たちの朝』の2作品を上映しました。

両映画ともに、たくさんの方にご参加いただき、参加者からは「一消費者として、地球環境や労働者について考えることが大切だと感じました」「女性の生き方について考えさせられました」といった感想をいただきました。



ブース出展

「クレオ大阪東SDGsフェスタ」 2022年10月22日(土) 会場：クレオ大阪東

「クレオ大阪中央フェスタ」 2022年11月19日(土) 会場：クレオ大阪中央



クレオ大阪東SDGsフェスタ



クレオ大阪中央フェスタ

クレオ大阪東とクレオ大阪中央で開催された、施設のおまつりにブース出展しました。当日は、子どもから大人まで楽しめる様々な催しの中で、活動のPRに努めました。私たちの活動に興味を持ってブースにお立ち寄りいただいた方、「今できることを」と募金をしてくださった方、温かいお言葉を直接いただき、交流することができた、大変有意義な時間となりました。



2022年度、募金及び会費収入は、176,700円でした。
温かいご支援とご協力をありがとうございました。

2022年度、「会費」及び「寄付金」納入者一覧 (2022年1月1日～12月31日)

*お名前の公表を了承いただいた方のみ、掲載させていただいております。(五十音順に掲載)

伊藤 裕美 様

上杉 孝實 様

大阪市女性国際交流グループ
第11期カトレア会 様

大阪市地域女性団体協議会 様

小原 純子 様

加藤 佳津子 様

川村 淳子 様

木下 孝祐 様

黒台 裕子 様

小山 皖子 様

佐々木 邦子 様

瀬戸口 恵美子 様

田村 まき 様

中村 友美 様

名倉 嘉史 様

野々村 節子 様

早野 イサミ 様

松田 洋子 様

松村 英子 様

山川 文子 様

山崎 美加 様

山本 愛 様

山本 いづみ 様 他

危機的な状況に置かれているウクライナの女性と少女を
支援するため、募金を呼びかけました。



ウクライナ支援募金

2022年度
募金額 144,144円

いただいた募金は、UN Women(国連女性機関)を通じて、
困難に直面している女性と少女にお届けします。
温かいご支援をありがとうございました。

世界の女性とつながろう

国連ウィメン日本協会大阪 入会案内

国連ウィメン日本協会大阪は、女性のための国連機関であるUN Womenを大阪から支援する団体です。
皆さまからの募金、及び活動の純益は、UN Womenを通じ、世界の女性と少女のために使われます。

会員募集

年会費(1月1日～12月31日)

個人会員：2,000円(1口)

法人会員：5,000円(1口)

寄付金、年会費の振込先

郵便振替口座

口座番号：00900-9-207691

口座名義：国連ウィメン日本協会大阪

世界の女性と少女の笑顔と未来を
大阪から支えるために、
是非お力をお貸しください!



会員のみなさまには、各種お知らせ、イベントのご案内等をお送りいたします。



国連ウィメン日本協会大阪 事務局

〒543-0002

大阪市天王寺区上汐5-6-25

大阪市男女いきいき財団内

TEL：06-7656-9040 FAX：06-7656-9045

HP：https://danjo.osaka.jp/unwomensaka/

